

はじめに

昭和 53 年 3 月発行の本センター研究紀要の巻頭言に、次のような一節を見つけました。「未知の世界を解き学び、学業生活を続ける子どもの姿は、小さいながら、まさしく、『豆探究者』であります。過去の経験と既習の概念のみに頼る教師には、この豆探究者を教育する資格はないでしょう。教師が、まずもって、う余曲折のある探究の道を進んでみるのが、何よりも先決です。苦勞して探究の過程を体験し、『探究の物語』を書きつつある教師こそ、豆探究者を教育することができる有資格者だと信じます。(木村 悠 所長)」

現在、我が国の教育界では、「令和の日本型学校教育」を担う教師の姿として、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ学び続け、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えること等が求められています。さらに、教師の学びの姿を、子どもたちの学びと相似形のものへと転換することが志向されるとともに、学び続ける教師の姿は、子どもたちにとって重要なロールモデルであるとされています。教師にとっての研究は、不易かつ現代的な課題であると考えます。

本センターは、研修・研究・教育相談・学校支援の 4 事業を通して、各学校を支援しています。研究事業については、教育行政上の施策を推進するための方策の開発や、学習指導要領の理念を学校教育の場で具現化していくための仮説検証、喫緊の教育課題の解決に向けた提案等に取り組んでまいりました。こうした研究は、学校の支援という本来の目的に資すると同時に、教員による主体的な研究の充実に向けた気運の醸成にもつながるものと考えています。

この度、今年度の研究の成果を、『教育研究紀要(第 90 集)』として発表させていただき運びとなりました。研究に際し御指導・御協力を賜りました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、県内外の教育関係者の皆様方の率直な御意見・御教示をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

令和 6 年 3 月

愛媛県総合教育センター所長 中島 康史